

平成26年 網走市議会  
経済建設委員会会議録  
平成26年6月2日(月曜日)

○日時 平成26年6月2日 午後1時00分開会

土木管理課長 高橋 勉

○場所 委員会室

○議件

1. 第11期網走市農業振興計画について
2. 平成25年度観光客入込・宿泊施設利用状況について
3. 網走市観光振興計画について
4. オホーツク網走マラソン大会について
5. 5月16日から17日の大雨・強風に伴う災害発生状況について
6. その他

○事務局職員

事務局次長 佐藤 明  
総務議事係長 吉田 正史  
係 岩尾 弘敏  
係 菊地 香代子  
係 松山 俊

午後1時00分開会

○出席委員(6名)

委員長 佐々木 玲子  
副委員長 小澤 陽平  
委員 工藤 英治  
栗田 政男  
古都 宣裕  
山田 庫司郎

○佐々木玲子委員 ただいまより経済建設委員会を開催いたします。

本日の委員会の進行ですが、まず第11期網走市農業振興計画について、2番目平成25年度観光客入込・宿泊施設利用状況について、3番目網走市観光振興計画について、4番目オホーツク網走マラソン大会について、5番目として5月16日から17日の大雨強風に伴う災害発生状況についての5件となります。

まず1件目、第11期網走市農業振興計画についてを議題といたします。

○欠席委員(0名)

○川合正人農政課長 それでは、第11期網走市農業振興計画について、策定をしましたので説明をさせていただきます。

○委員外議員(1名)

議長 小田部 善治

資料1号のダイジェストで説明させていただきます。まず1ページをごらんください。1ページ、1. 網走市農業振興計画の体系でございますが、国の食料・農業・農村をめぐる動きはTPP、FTA交渉など国際環境の変化、農業行政の見直し、農業従事者の減少や高齢化の進行、後継者不足、主要先進国で最低水準の食料自給率、食の安全、安心に係る問題など、さまざまな問題を抱えている状況となっております。

○傍聴議員(6名)

飯田 敏勝  
金兵 智則  
高橋 政行  
平賀 貴幸  
松浦 敏司  
渡部 眞美

農林水産省では2010年、平成22年に策定した現行の食料・農業・農村基本計画の見直しを進めておりまして、2014年、平成26年の1月に10年ほど先を見通した、新たな基本計画の策定を食料・農業・農村、政策審議会に諮問し、その基軸である農林水産業、地域の活力創造プランでは、農業の所得を今後10年間で倍増させることを目指しまして、①として農地流動化を進めるための農地中間管理機構を整備、②経営所得安定対策の見直し、③水田フル活用

○説明者

副市長 大澤 慶逸  
経済部長 今野 哲男  
観光部長 田口 桂  
建設部長 石川 裕将  
農政課長 川合 正人  
観光課長 武田 浩一  
観光部参事 二宮 直輝

と米政策の見直し、④日本型直接支払い制度の創設という四つの改革をうたっているところであります。

こうした国の方針のもと、網走市農業についても、市民との協働を通じた生産基盤の確立と、さらなる発展を目指していくことが重要となっております。第11期網走市農業振興計画では、これまでの振興計画の内容と成果を踏まえ、網走市におけるさらなる農業の振興と地域活性化を目指して、農業者や関係機関、団体へのヒアリング、農業施策への意見や食への関心に関するアンケートを実施しまして、幅広く網走市民の意向調査を行い策定したところでございます。

なお、この計画期間は2014年、平成26年度から2018年、平成30年度の5年間でありまして、今後予想される農業政策の転換やTPP交渉の行方などの情勢変化など、農業者は先行きの不透明感から現状維持思考を強めておりまして、こうした閉塞状況を打破するため、網走市の農業をどうしていくべきか、いかなる事態にも備えるという極めて重要な時期でありまして、網走市並びに農業関係機関や関連団体そして農業者を含め、網走市民が一丸となって総力で知恵を出し合い、振興計画を推進していくこととしております。

続きまして、2ページをごらん願います。

振興計画の体系図でございますが、本振興計画の基本目標は、人と大地を育む持続的な網走市農業の確立を目指してとしまして、この基本目標を実現するために課題として、意欲のある農業者を育成確保し、持続可能な活力ある農業を目指す、安定した農業所得が確保できる生産体制づくりを目指す、豊かな農と安全・安心な食を活用した地域振興を目指す、安心して定住できる生活環境づくりを目指す、の4項目を設定しまして、それぞれの課題に対して合計12の方策を立てております。

続きまして、3ページをごらん願います。

2. 基本目標の課題と方策について、内容を説明させていただきます。

一つ目の課題であります意欲のある農業者を育成・確保し持続可能な活力ある農業を目指すための方策としまして、(1) 担い手の育成確保を支援するために、市では関係機関と連携しまして、網走市農業の担い手の育成・確保を支援する取り組みとしまして、将来の網走市農業を牽引するリーダーの育成を目的とします各種事業への支援や配偶者対策、

新規就農者を受け入れる環境整備の検討、女性が農業経営に参画し、多様な能力を発揮できる環境づくりの支援、円滑な経営継承の方法や第三者への事業継承のあり方についても検討を始めていくこととしております。

(2) 農業者の交流機会を創出し、農業者への技術並びに知識習得を支援するためとしまして、農業者の知見を広める活動に対する支援の充実化の検討を行い、また農業者が異業種も含めて情報交換ができる交流会や、農業者と消費者が地域農業の重要性などの情報を共有できる取り組みを実施していきます。

(3) 農業に対する市民の関心と理解を深める取り組みを実施するためとしまして、農業の現状や農と食の魅力を伝え、地産地消や食育を推進するため、網走市農業に対する市民の関心と理解を深める取り組みとして、一般市民を対象とした農地の見学や、農業施設、農畜産物加工場の視察ツアーの実施について検討します。

また、網走市農業が直面している課題の共通認識と解決に向けた方策について、柔軟かつ迅速に対応できる体制をつくります。

次に、二つ目の課題であります。

安定した農業所得が確保できる生産体制づくりを目指すための方策として、(4) 生産基盤を強化することとして、資料の3ページから4ページにかけて記載しておりますが、網走市農業の生産力を確保するため生産性の高い農地と労働力の確保は重要でありまして、基幹作物である畑作3品の振興と輪作体系の維持、野菜、果樹、酪農、畜産など地域特性に応じた農業展開の支援、安定した農業経営のための生産基盤整備や営農組織整備への取り組みへの支援、さらには農地流動化や農地集積についても引き続き取り組みます。

また、近年の気候変動により農畜産物の収量、品質などへの影響も懸念されることから、品質のよい安全、安心な農畜産物を安定的に生産するため、適切な病虫害対策や土づくりを推進します。

農繁期に発生する労働力不足など人手不足に対応するため、営農支援を含めまして、ヘルパー組織やコントラクターなど営農支援体制の充実に取り組みます。

次に、(5) 多様な農業経営体を支援するため、畑作3品の振興のほか薬用作物などの多彩な農業生産を可能にする農業振興の推進、農商工連携や、6

次産業化などを図るため、農業と異業種をマッチングさせる環境整備に取り組みます。

また消費者のニーズに応える特産品づくりへの支援と、既存の網走市農畜産物を利用した商品の販路拡大にも取り組んでまいります。

次に、(6) 新技術・新作物導入及び研究開発を支援するためとしまして、近年農業生産現場にも導入されてきております情報技術 I T や、情報通信技術 I C T の活用に関して、導入の可能性と支援のあり方についての検討、新たに導入する農畜産物につきましては、生産、栽培技術の開発、普及への取り組みを支援、環境と調和した農業生産技術を確立するため、化学肥料や農薬の使用低減など栽培技術の普及、家畜排せつ物の利活用、農業資材、農業用廃プラスチックの適切処理などへの取り組み、さらには未利用バイオマスの活用や太陽光、風力などの自然エネルギーの農業生産活動への利用可能性の検討を進めるなど、環境保全型農業を推進していきます。

次に、(7) 野生鳥獣による農業被害防止対策を実施するため、農業被害の状況を把握し、周辺市町村と連携しながら、被害防止活動や侵入防止柵の設置、また狩猟者の確保、育成に向けた対策、適切な野生鳥獣の捕獲方法の検討を進め、効果的な農業被害防止対策に取り組むこととしております。

次に、5 ページにお進みください。

三つ目の課題であります、3) 豊かな農と安全・安心な食を活用した地域振興を目指すための方策としまして、(8) 地産地消・食育を推進するため、直売所の新規開設やイベントの開催など、網走市産農畜産物を購入できる機会の創出を検討し、地産地消の取り組みを積極的に推進する飲食店情報など、市民に情報発信できる体制の整備、さらには市内学校給食における網走市産農畜産物の利用拡大を引き続き推進します。

市民や関係団体の活動と連携しながら、市民全体の食育を推進し、健康で豊かな生活の実現を目指します。

(9) 農畜産物の付加価値向上と安定した流通体系の構築を図るという取り組みを支援実施するため、網走市農畜産物を活用した特産品の研究開発の支援や、網走市産農畜産物の認知度向上と、イメージアップへの取り組み、さらにより一層の効果上げるためには、網走市を含めましたオホーツク地域のブランド力の強化を図るため、周辺市町村と連携し、

オホーツク地域全体の農畜産物のブランド力を高める取り組みを推進するとともに、販路の開拓など、流通体系の構築を図るための取り組みを進めてまいります。

(10) 農村文化、食文化の伝承と新たな創造への取り組みを支援するため、網走市農業の歴史を伝える関連資料や、史跡を管理、保全する取り組みの支援、農業に関係する伝統芸能や郷土料理など、文化の伝承に取り組む団体の活動を支援します。

また、網走市農業の魅力を伝える一環として、景観や農作業風景を生かした新しい観光ルートの開発や、農作業や食を生かした修学旅行やスタディーツアーの企画など、観光資源としての農業の多面的機能の活用についても検討します。

次に、6 ページをお開きください。

四つ目の課題であります、4) 安心して定住できる生活環境づくりを目指すための方策としまして、

(11) 生活基盤を整備・拡充し、定住条件を確保するため安全な飲料水の供給と、下水道の整備への取り組みや、生活道路の整備、ブロードバンドの導入支援など、快適な生活環境を確保するため、地域の実情に即した、必要な施策を実施します。

(12) 快適な生活環境を確立するため、地域コミュニティの機能の充実が重要でありまして、子どもから高齢者の方までが快適に生活できる環境の実現を目指し、その環境整備に関する支援のあり方の検討を進めます。

また、医療機関へのアクセスや高齢者介護の問題など、農業者の健康増進及び福祉の向上に対する支援方法の検討を進めます。

次に、3. 目標とする農業所得等についてでございますが、振興計画の目標とする年間農業所得は1 個別経営体当たり1,000万円程度とし、年間総労働時間は、主たる農業従事者1人当たり1,800から2,000時間程度とします。

7 ページには、目標とする指標等を記載してございます。

以上でございます。

○佐々木玲子委員長 皆さんから質問等ございますでしょうか。

○山田庫司郎委員 今、説明があったように、網走市にとっても一次産業の農業、大変大切な事業ですし、日本的にも北海道の中でも十勝、オホーツク圏というのは、農業でも基本的な重要な地域ということで位置づけされているわけで、ただ背景の中で言

われているようにTPPも含めて、個人的な国とのEPAも含めてですけれども、どういう状況になったかということがひとつ背景としてまた動きが出てくるのかもしれませんが、説明があったようにそこはそことして、網走市の農業をやはり現状維持を含めて、それ以上にしっかり守っていこうと、それが基本の振興計画というふうに説明をいただきました。

それで、何日か前に送付をしていただいているので、さらっと目は通してはいますけれども、非常に大事な計画だと私たちも思っていますし、せっかく御苦労されて、作っていただいた計画だと思います。

それで、委員長に、また非常に大事な計画ですから、何か議論できるような場所をもう一度設定を含めていただければありがたいというふうに思うのですが、5年間というふうになるか、非常に激動の5年のような感じもしますけれども、そういう時間をもし委員長のほうで確保していただければ、お願いさせていただきたいと思えます。

**○佐々木玲子委員長** 山田委員のほうから、少し時間を確保して議論してみたいというお話が出ていますけれども、他の委員の皆さんどうでしょうか。

非常に重要な問題だということで、別に時間を持ってということなのですが。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

そうしましたら、またきょうの委員会とは別に、意見のやり取りをさせていただく時間を作らせていただきたいと思いますので、後ほど日程等決めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

この1番目の農業振興計画につきましては、またゆっくり時間をとってということで、議論したいということですので、次の議題に移りたいと思えます。

---

**○佐々木玲子委員長** 次に、平成25年度観光客入込、宿泊施設利用状況についてを議題といたします。

**○武田浩一観光課長** 平成25年度観光客入込、宿泊施設利用状況について御説明いたします。

資料2をごらんください。

平成25年度の観光客入り込み数は140万8,900人で対前年比103%となり、宿泊数は36万600人で対前年比99.4%となり、おおむね昨年度並みとなっています。

この主な要因ですが、上期は各種イベントが好天

に恵まれ、個人観光客の動きが活発になったことや、6月から9月における航空機材の大型化や、ラグビーや陸上をはじめとする各種合宿、さらには公共工事関係者の宿泊や各種スポーツ大会などが堅調に推移したことが考えられます。

下期は引き続きインバウンドが好調に推移したことや、国内メディア商品、個人観光客の動きが堅調に推移しましたが、一方で、2月の荒天の影響により、観光客の入り込みにブレーキをかける結果となり、おおむね昨年並みに推移したと考えられます。

観光施設の入館者数については、オホーツク流氷館及び博物館網走監獄ともに入館者数が前年数値を上回る結果となりましたが、流氷観光砕氷船おーろらは、流氷が来るのが遅かったことや悪天候などによる欠航が昨年より多かったことなどから伸び悩む結果となっています。

外国人観光客の宿泊数については、台湾は昨年度と同程度で推移したものの、香港からの観光客の宿泊が好調に推移したのを初め、中国からの個人観光客が市街地のホテルを中心に宿泊数をふやしており、全体の宿泊数は2万4,800人で、対前年比129%となっております。

以上で説明を終わらせていただきます。

**○佐々木玲子委員長** 皆さんから質問ございますか。

よろしいでしょうか。

声が出ないようですので、これは報告いただいたということで、次の議題に移りたいと思えます。

---

**○佐々木玲子委員長** 次に、網走市観光振興計画について議題といたします。

まず説明をお願いいたします。

**○武田浩一観光課長** 網走市観光振興計画について御説明いたします。

先日、網走市観光振興計画2014につきましては、事前にご送付させていただいておりますので、本日は概要について御説明させていただきます。

資料3をごらんください。

網走市観光振興計画2014の概要についてですが、初めに計画の位置づけと狙いですが、本計画は平成26年度を初年度とし、5年間、平成30年度をめどとして、網走市観光振興計画2014を策定いたしました。

前計画は平成17年に策定され、その間、網走市内外、また国際的にも社会情勢が変化してきておりま

すが、平成17年に策定した計画の目標や施策については、中長期視点で現在から将来も継続されるべきものが少なくないことから、本計画は前計画を基本としながら変化した環境条件を踏まえ、重視すべき施策や新たに取り組むべき施策を加えた計画としております。

本計画が推進される上で、まず初めに取り組むべき戦略・施策として、計画全体のリーディングプロジェクトとなる取り組みを実施し、最終的に計画全体の遂行、達成が一層確実なものとなるよう取り組んでいくために、本計画が目標に向けてオール網走で取り組むためのロードマップとなることを期待し策定いたしました。

次に、網走観光の位置づけですが、初めに網走の観光客入り込み数を見ると、平成16年から年間180万人から120万人で推移しており、北海道全体の傾向以上に、網走市とオホーツク圏の落ち込みの傾向が厳しい状況となっておりますが、平成24年度は若干の持ち直しの動きも見られます。

ただいま説明した傾向については、2ページの図1で北海道、オホーツク圏、網走市の観光入り込み客数を平成16年度を100とした指数で記載させていただいております。

次に、マーケットから見た網走観光のイメージと評価ですが、全国150観光地に対するアンケートを実施した調査によると、(1)網走の認知度、興味度ですが、網走市に対する認知度は、全国150観光地の中で第2位にランクされるほど高い結果となっておりますが、興味度、行ってみたいは45位となっており、知ってはいるが行きたいと思わせる動機づけが弱いと分析できます。

また、世代別に見ると、シニア層の認知度、興味度は高いが、年代が若くなるほど低下し、かつての知名度は低下しつつあるといえます。

(2)網走に対するイメージですが、来訪経験の有無にかかわらず、網走のイメージで最も高いのは、自然にあふれているのですが、訪問経験のない人に比べ、訪問経験の指摘率は下がることから、想像ほどではない、自然を堪能する機会がなかったことがうかがわれております。

また、訪問経験者が未経験者を上回るイメージとしては、料理がおいしい、海の幸、山の幸など、その地域ならではのものがあるが上げられ、食に関しては来てみると思った以上においしいものがあると捉えていることから、網走の食に関しては、もっと

アピールが必要と考えられます。

(3)再訪意向と推奨意向についてですが、認知度は高いもののシニアは一度きりでよいと思っている、また、若い人の認知度は低いが来訪した人の92%がまた来たいと思っているという結果となっております。

(4)イメージと来訪意向ですが、消費者が網走に対して抱くイメージが興味度にどれだけ影響しているかを分析した結果、全般に自然にあふれている、歴史を感じるというイメージが強いが、若年層のほうが興味度が高く、料理がおいしいなどのイメージでも若年層のほうが訪問意向に結びついている結果となっております。

(5)網走に対する満足度ですが、全国150観光地の中で125位となっております。満足度が高い項目は、地域の自然、地域の観光、活動、体験。満足度が低い項目は、地元の人との触れ合い、まちのにぎやかさとなっております。

また、網走に対する満足度は、世代にかかわらず、地域の料理、食材が決め手となっております。

地域の自然と地域の料理、食材が満足度が高く、総合満足度への影響度が高いことから、網走の自然と食の質の高さを強く意識し、さらに生かすべきと考えられる結果となっております。

4ページ、5ページをごらんください。

次に、課題の整理ですけれども、網走観光の課題と整理と計画への接近とし、計画の目標と方針を設定するに当たり、網走観光の現況と課題及び策定委員会での意見等をもとに、戦略立案を行う際の主要分析でありますSWOT分析を行うための網走の強みと弱みの洗い出しを行いました。

(1)網走の強みといたしましては、シニア層が持つ認知度の高さ、若年層の持つ再訪意向の高さ、料理食材に対する満足度の高さ、天都山、流氷といった網走ならではの観光資源の存在、魅力的な観光資源とアクティビティーの多彩さなど。(2)網走の弱みといたしましては、宿泊客比率が低い、立ち寄り通過型の観光が主流、網走イコール冬の流氷のイメージが先行し、春夏秋の網走のイメージが弱いなど。(3)機会といたしましては、世界自然遺産、知床に隣接する玄関口としての立地など。脅威といたしましては、オホーツク管内全体での観光客数の伸び悩み、シニア層の再訪意向の低さなどが挙げられます。

これらを体系的にあらわしたものが、5ページの

図でありまして、そこから次に説明いたします五つの方針を導き出してまいります。

6ページ、7ページをごらんください。

網走市観光振興計画の目標と方針についてでございますが、初めに目標についてですが、網走市は豊かな海産資源の宝庫として知られておりますが、味覚としての優位性は海の食材だけではなく、農産物でも豊かな資源に恵まれており、さらに味覚だけではなく、厳しい自然環境ながらも国内、道内、他地域では得られない風景や体験にも恵まれております。

このことから、食の分野だけではなく、来訪者の五感を通じたさまざまな体験や経験に対し、網走のオンリーワンといえる質の高さと固有性を追求し、観光客に随所でこれはおいしいねと賞されるまちづくりを目指すこととし、目標を「五感に響きおもてなしが心に残るおいしいまち網走の創出。味覚のみならずさまざまな場面・体験を通じ、おいしいを感じる網走の実現」といたしているところでございます。

なお、先ほどの説明のとおり、おいしいまちとは味覚のおいしいだけではなく、自然、景観、体験、歴史、文化、人との触れ合いを含めた広義の意味でのおいしいを意味いたします。

次に、目標達成するための五つの基本方針を設定しております。

一つ目として、網走でしか味わえない、楽しめないオンリーワン、すなわちおいしい資源を発見、開発しての商品づくりを目指す網走のオンリーワンの開拓。二つ目として、泊まることで味わえる楽しめるコンテンツを拡充し、短時間では伝えきれない網走の魅力を提供するための体制を整備する、泊ってこそ楽しめる網走の魅力開発。三つ目といたしまして、網走に点在する豊富な観光資源を面としてとらえ、連携を強めることによる魅力アップを図る網走観光ネックレス化の推進。四つ目として、複数の情報発信チャンネルを駆使し、戦略的なマーケティング、プロモーション実践する多様なツールを活用しての話題づくり。五つ目として、多様な主体、関係者が集結し、オール網走で計画推進に取り組む官、民、学、異業種連携による網走観光の推進としております。

8ページ、9ページをごらんください。

目標数値と目標達成度の検証についてでございますが、目標数値として観光入り込み客数を170万

人、宿泊客数を51万人と設定しております。

ただし、目標数値の考え方は、内外の社会環境の変化や旅行の多様化、個人化が進む中で過去の数値の延長から需要予測を行い、目標数値を設定することは、不確定要素が多く説得性は薄いことから、本計画で定める目標数値の意味合いは、需要予測という数値ではなく、オール網走体制で5年後の平成30年度へ向けた実現への決意のあらわれとして位置づけております。

なお、目標数値として参考にすべき対象をリーマンショックや、東日本大震災という甚大かつ不測の事態であった社会事象の発生前である平成19年度を目安としております。

平成19年度と現状では環境が違う部分もございますが、本計画で示す新たな取り組みを実行することで、平成19年度の実績数を取り戻すことは実現可能な目標と考えております。

また、目標達成度合いをはかるには、観光入り込み客の定量的指標だけではなく、観光入り込み客数実数の向上、入り込み客の満足度の向上、全国的な認知度、地域側、資源の充実度、意識向上なども、定期的に捕捉していき検証していくこととしております。

10ページをごらんください。最後になりますが、計画の全体像をまとめたものでございます。

目標である五感に響きおもてなしが心に残るおいしいまち網走の創出に向け、五つの基本方針のもとで、記載しております各種戦術、施策を展開していく計画としております。

なお、リーディングプロジェクトの芽出し事業として、計画の重要テーマであります食を切り口とした平成26年度の網走食のまちプロジェクト推進事業をスタートとして取り組んでまいります。

以上で説明を終わります。

○佐々木玲子委員長 皆さんから質問ございますか。

○古都宣裕委員 これも基本的に農業振興計画と一緒に重要な事案だと思うので、改めてまたしっかりとした議論をしたほうがいいのではないのでしょうか。

○佐々木玲子委員長 古都委員から、この観光振興計画につきましても、重要な案件なのでまた時間をとって議論をしたいという話がありますけれども、皆さんいかがでしょうか。

○山田庫司郎委員 農業振興のときも私お話ししま

したけれども、古都委員が言うようにこれも非常に大切な計画です。

それと、短期、中期ということで、実施時期を5年間で決めている中期もありますけれども、平成26年、継続の事項もありますけれども、27年で短期的にやらなければならないということで整理されている項目が大分あるようですから、ぜひもう一回別の時間を作っていただいて、議論をさせていただきたいと思えます。

**○佐々木玲子委員長** ほかの委員はどうでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

よろしいでしょうか。

ではお二人からまたこの振興計画についても、ゆっくり議論する時間を持ちたいということですので、後ほどまた日程等調整させていただいて、議論の場を持ちたいと思えますので、よろしくお願いたします。

---

**○佐々木玲子委員長** 次に、オホーツク網走マラソン大会についてを議題といたします。

**○武田浩一観光課長** オホーツク網走マラソン大会について御説明いたします。

現在、平成27年度のマラソン大会実施を目指す取り組みを行っており、過日、実施に向けた実行委員会を組織したところでございます。

このことから、実行委員会で説明しました内容について御説明させていただきます。

資料4号をごらんください。

資料につきましても、平成26年5月8日に開催しました第1回オホーツク網走マラソン実行委員会総会で使用した基本計画案の資料でございます。

この基本計画案は、実行委員会において、目指す方向を説明するために作成したものです。よって詳細については、現段階で実行委員会において決定したのではなく、各関係機関との協議及び今後開催される実行委員会での協議により修正を加えながら決定していくこととなります。

2ページをごらんください。

開催の目的ですが、網走の魅力、よさを内外に発信し、地域の活性化及び発展、経済波及効果に寄与するとともに、市民の健康増進とホスピタリティー精神の向上、育成及び将来的な障がい者スポーツの推進を図ることを目的としております。

大会のコンセプトですが、網走オホーツクの食、

味覚、景観、歴史を中心とした魅力をすべてのランナーに楽しんで走りながら満喫いただく大会としております。

3ページをごらんください。

開催概要ですが、大会名称については、第1回オホーツク網走マラソンです。名称にオホーツクを入れることにより、自然、味覚などの印象づけになると考えております。

開催日時については、平成27年9月27日日曜日、午前9時スタートとしています。9月を開催時期にした理由といたしましては、本州は暑さが厳しいためマラソンをほとんど開催していないこと、道内において現在9月開催のフルマラソンがないことから、ランナーのニーズに応えられると考えております。日にちについては、既存の陸上競技大会や他の市内イベント、ボランティアスタッフなどの受け入れ体制などを考慮したところでございます。

開催種目はフルマラソンのほかに、子ども、親子、ランニング初心者の参加でも楽しみながら走れる5キロ、3キロも設定いたします。

フルマラソンの基本的なコースについては、網走刑務所の正門前をスタートし、能取岬を經由し大曲湖畔園地にゴールするコースとなっております。詳細については後ほど御説明申し上げます。5キロ、3キロについては、大曲湖畔園地を発着としております。

制限時間は6時間と考えており、これはフルマラソンとしては緩めの制限となっております。多くの人が完走できる大会にしたいと考えています。

参加定員は合わせて3,000人を想定し、大会運営の準備を進めます。

参加料は記載のとおりです。これは他の大会を参考に想定していますが、見合った参加賞、おもてなしなどランナーにとって満足度の高い大会にすることが重要であると考えています。

参加資格は記載のとおりでございます。

併催事業として、あばしり「うみ」と「大地」の収穫祭を開催し、市民の来場でにぎわっている会場へランナーがゴールし、会場での表彰式や食のおもてなし、地元の人との交流をしていただきます。

主催はオホーツク網走マラソン実行委員会となります。後援、協力、協賛については今後調整していくこととなります。

以上が開催概要ですが、御説明いたしました大会名称、開催日時、開催種目、基本的なコースにつき

ましては、実行委員会総会にて御承認いただいたところでございます。

次にコースですが、4ページをごらん願います。

スタートは刑務所の赤レンガ正門前とし、鏡橋を渡り左折し、国道39号線を進み網走駅前を左折します。その後、総合振興局を左折し、道道網走公園線分岐を左折し海岸町を通ります。ここまでは市街地なので、沿道からの応援を受けながら走るようになります。

このあと、ニッ岩まで進み、ここではオホーツク海、帽子岩、知床連山を背景に走ります。その後、能取岬に向かい、岬からの雄大な景色を見ながら灯台を折り返します。網走公園線に戻り、トンネルを抜け、再びオホーツク海を眺めながら、能取湖に入り、レイクサイドパーク、漁港を抜け二見ヶ岡地区の田園風景を眺めながら、国道238号まで走ります。ここで左折し、以降はサイクリングロードを走ります。網走湖沿いを走り抜け、大曲湖畔園地に入り、外周を回ってひまわり畑を通り抜けゴールという形になります。

ゴール後は併催しております収穫祭でおいしいものを食べながら、地元の人と交流をしていただきます。

このコースは市街地も通過し、自然景観の変化に富んでいて、かつ網走らしさを感じられるコースになるのではないかと考えております。

なおコースについては42.195キロの距離とを考えておりますが、今図に示している基本コースでは2、3キロ足りない状況であることから、今後調整した上で、詳細コースを確定したいと考えております。

5ページをごらんください。5ページは、3キロ、5キロの大曲湖畔園地内を発着とするコースを示しているところでございます。

6ページをごらんください。スタート会場設営プラン（案）ですが、これ以降の事項につきましては、前段でも御説明させていただきましたが、現段階での想定されるものですので、今後各関係機関との協議及び今後開催される実行委員会での協議により、修正を加えながら決定していくこととなりますので御了承願います。

6ページ、7ページについては、スタート会場設営プランですが、網走刑務所正門前をスタートラインとして、選手の整列等のシミュレーションの図でございませう。

テントの設置場所など詳細については、今後刑務

所と十分な協議をしていくこととしております。

8ページ、9ページにつきましては主要ポイントにおける先頭走者及び最終走者の予想通過時間及び通過地点を記載したものととなっております。

10ページから13ページにつきましては、交通規制等の計画について記載しておりますが、規制時間等については現時点での予想タイムによるもので、目安時間となっております。

次に14ページをごらんください。14ページにつきましては、約5キロごとに設置する給水ポイント、エイドについて記載をしております。14キロ地点である能取岬と27キロ地点であるレイクサイドパークのところで、スペシャルエイドステーションとして給水だけではなく、網走らしさを演出する給食を用意することで計画しているところでございます。

15ページをごらんください。15ページにつきましては、広報、周知の計画について記載しております。ポスター、チラシでの周知はもとより、北海道ランニング大会ガイドなど、参加者に影響力の高い雑誌等も活用した周知を適切なタイミングで積極的に行いたいと考えております。

16ページをごらんください。16ページにつきましては、ボランティア計画を記載しており、大会運営スタッフは受付、給水など510名が必要と試算しているところでございます。

17ページをごらんください。17ページにつきましては、主な基本的なスケジュールを記載しております。

次に、18ページにつきましては、参考として他の大会の給水ポイント、エイドでの配付物を記載したものでございます。

以下のページにつきましては、大会役員、実行委員会委員、事務局の名簿を添付しております。

今後、大会実施に当たっての業務内容、ボリュームなどを検討する実施計画を作成し、大会開催に向けて取り組んでいきます。

以上で説明を終わらせていただきます。

○佐々木玲子委員長 ありがとうございます。皆さんから質問がありましたら。

○工藤英治委員 報告を受けた中で、あとは委員会は委員会の中で、もう少し委員同士の議論を膨らませてもらえればと思います。

○佐々木玲子委員長 改めて別の機会を設けてということでしょうか。

今工藤委員から、委員会として、委員としての委

員同士での議員間討論といえますか、皆さんで少し話を煮詰めてみたいというお話が出ているのですけれども。いかがでしょうか。

暫時休憩いたします。

午後1時45分休憩

午後1時51分再開

○佐々木玲子委員長 再開いたします。

初めて聞くことですので、私たち今回は行政視察の中でも、大井川マラソンをいろいろと勉強してきたこともありますので、聞きたいところをまず聞かせていただいた上で、工藤委員から提案のあった委員会としての提案等を煮詰めてみたいという話ですので、この後、最低でも2回はこの議題についても委員会を開きたいと思っておりますけれども、そのような方向でよろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

質疑ありましたら、ここで進めたいと思っておりますので、どうでしょうか。

何か質問ございますか。確認したいこととかはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

マラソン大会につきましては、また次回の委員会ということでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐々木玲子委員長 次に、5月16日、17日の大雨・強風に伴う災害発生状況についての報告を受けたいと思っております。

○高橋勉土木管理課長 5月16日から17日の大雨・強風に伴います災害の発生状況につきまして、御報告申し上げます。

資料5号をごらんください。

1の気象の概要ですが、5月16日発達しながら千島近海に進んだ低気圧の影響で、網走西部では16日に波浪警報、強風、大雨などの注意報が発表されております。

網走市では24時間降水量が5月としては、昭和46年以降最多の87.5ミリを観測し、瞬間最大風速も26.8メートルを観測したことなどにより、道路や河川、圃場、公共施設などへの被害が発生しております。

2ページをごらんください。

2の被災状況ですが、公共土木施設では道路が平和停車場線を始め6カ所で路体崩壊、法面崩壊などが発生し、河川では第2千草川で河岸洗掘の被害が

発生しております。

そのほか、港湾第二埠頭にあります市営2号上屋の壁面が破損、こまば木のひろばでの倒木などがありました。

農業関係では、圃場が土砂流出によりバレイショ3.0ヘクタール、大麦0.06ヘクタールの合わせて3.06ヘクタール。冠水による被害は秋まき小麦0.3ヘクタール、バレイショ2.33ヘクタール、てん菜3.3ヘクタールの合わせて5.93ヘクタールで、合計8.99ヘクタールで記載しておりますが、被害額につきましては、作物の今後の回復状況により変化いたしますので、現時点では把握できておりません。

また、営農施設では強風の影響により倉庫等の農舎が12棟、畜舎3棟、ビニールハウスで18棟などの被害が出ております。

そのほかバイラギ林道、二ツ岩地域ですが、こちらで倒木がありましたが、国有林の管理道路であることから、南部森林管理署へ連絡し対応していただいております。

公共土木施設の被災箇所は3に記載のとおりとなっております。3ページには被災箇所図を添付しておりますので御参照ください。

主な被災状況につきましては、写真で説明させていただきます。

まず道路関係ですが、4ページをごらんください。4ページ上段が平和停車場線の法面崩壊、下段には卯原内平和線の法面崩壊の状況であります。

そして5ページ上段には二見ヶ岡卯原内線、下段には藻琴中園線、そして6ページに参りまして上段稲富丸万線の状況でございますが、いずれも道路の表面水、あるいは隣接地等からの雨水により、被害を受けたものと思われまます。

6ページの下段には、音根内丸万線の写真ですが、こちらは道路路体が3メートルほどの深さで崩壊している状況となっております。

次に河川関係ですが、7ページ上段、第2千草川の状況ですが、降雨により河川の増水に伴いまして、柵渠の背後が吸い出しを受け、土砂が流出したものと思われまます。

最後の写真が農業施設の関係ですが、ビニールハウスが強風により被害を受けたもので、先ほども御報告申し上げましたが同様な被害が合計18棟発生しております。

なお、被害額及び被災箇所の復旧にかかる費用につきましては、現在積算精査中でございますが、公

共土木施設関係でおおむね2,000万円から3,000万円程度を見込んでおり、早急な復旧を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

**○佐々木玲子委員長** ありがとうございます。

何か確認等ございましたら、皆さんからどうぞ。

**○山田庫司郎委員** 今説明いただいたのですが、降水量も含めてですが、公共の災害の対象になる降雨量だったのかというのが少しあるのですが、もしなければすべて単独災害という扱いになるのか、その辺をお聞きしたいと思います。

**○石川裕将建設部長** 公共災害の対象かどうかということでございますけれども、先ほど申し上げました、網走气象台につきましては87.5ミリの観測をしております。

公共災害の採択基準であります、これは24時間雨量80ミリということになってございまして、網走气象台ではそれを上回っているという状況でございます。

ただし、観測地点は網走气象台のみではなく、例えば近隣の東藻琴ですとか、小清水町等にも観測地点がございまして、被災箇所直近の観測データによります採択ということになってくるという事情もございまして、現在その辺それぞれの現場が公共災害に採択するかどうかということも含めて、精査を行っている状況でございます。

**○山田庫司郎委員** わかりました。

観測していた地点と近い現場については、そのデータを使うのだというふうに思いますから、できれば公共の災害対象になれば、施行がおくれる場合もありますけれども、市としては財政的に非常に助かる部分もありますので、その辺はきちんとシビアにさせていただいて、公共災害の対象になる箇所については、ぜひそういう対応をお願いをしたいというふうに思います。

それと例えばビニールハウス、畜舎等の関係も、これは道路とまた違う災害の対象というのはあるのだと思うのですが、その辺はどうなのでしょう。

**○川合正人農政課長** 農業のビニールハウス等の被害についてでございますが、こちらのほうは、やはり個人の所有物ということにもなっておりますので、それぞれの農家の方が共済等に加入している場合は共済の対象になり、また共済等に入っていない場合は、その対象にならないで御自身で修理するというふうになっております。

**○山田庫司郎委員** わかりました。いずれにしても毎年起こらなければよいのですが、どこかしら傷むということが災害に応じて出てくるわけで、説明があったように速やかな復旧を含めて対応をお願いして、以上です。

**○石川裕将建設部長** 先ほどの補足をいたしますけれども、網走气象台87.5ミリと申し上げましたが、近隣の観測地点いずれも80ミリに達しておりません。

箇所図でござんのとおり、結構網走气象台から離れている箇所が多いものですから、そこら辺も含めて今後関係機関と協議を行ってまいりますけれども、公共債というのはなかなか難しいのかというふうに現在のところは考えております。

**○佐々木玲子委員長** そのほかございますか。

よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

---

**○佐々木玲子委員長** それでは、以上で本日の議件5件の議案が終わりましたので、理事者側からそのほか何か案件をお持ちでしょうか。

**○川合正人農政課長** それでは私のほうから1件、豚流行性下痢PEDについてでございますが、昨年10月から沖縄県で発生して以来、全国に拡大しまして、道内においても発生してきております。

豚流行性下痢PEDについてでございますが、道内では4月10日に渡島管内の森町で発生が確認され、オホーツク管内では5月の29日に大空町女満別で発生を疑う事例が確認されたところでございます。

現在、確定検査を実施していると聞いておりました、結果はきょうかあす中に判明する予定と聞いております。

確定されますと、道内では19例目、管内では初めて1例目の発生となるところであります。

網走市では発生のほうはしておりませんが、市内には1軒の大規模養豚業者と1戸の養豚農家がおります。

市では、大空町の情報を入手してから、速やかにファックスによりまして、大空町の発生状況、また防衛対策としまして、敷地内の消毒の徹底を図るなどの注意喚起をファックスで送信通知しているところであります。

また市では、今回の大空町の情報が入る前から、この2軒の養豚事業者につきましては4月から文

書、電話等により防疫対策の徹底についてはお願いをしているところでありまして、今回もさらなる防疫体制の徹底というところを改めてお願いしたところであります。

以上でございます。

○佐々木玲子委員長 そのほか、委員のほうから何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

以上で経済建設委員会を終了いたします。

午後2時04分閉会

---